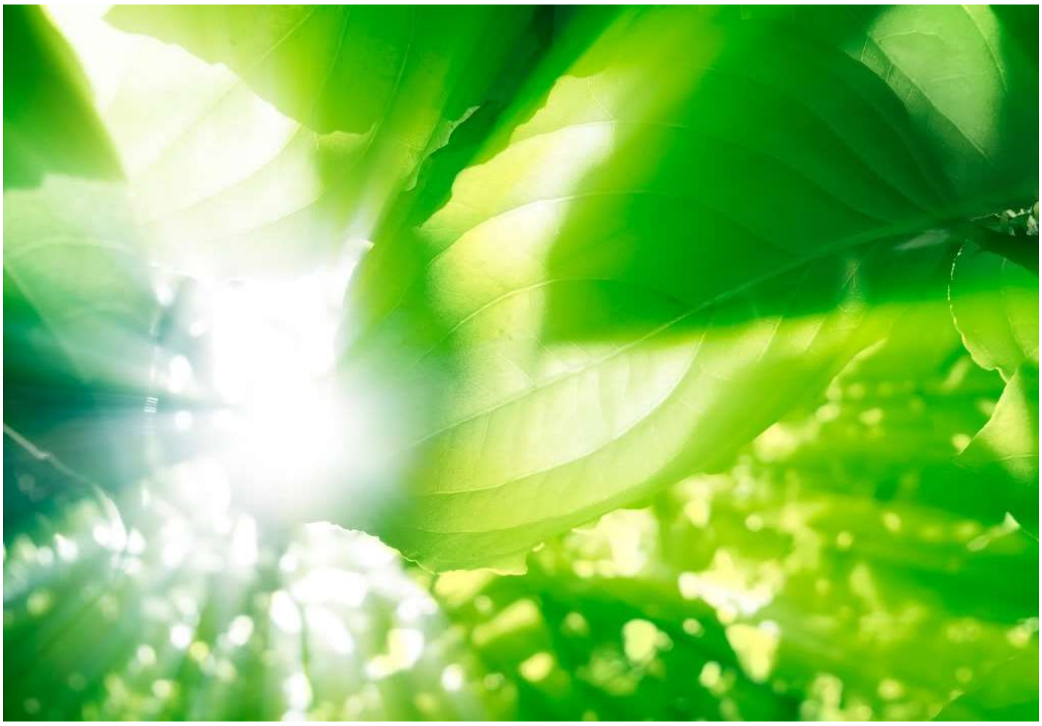
環境経営レポート



作成　　　２０２４年５月8日

対象期間　2023年4月～2024年3月

株式会社長嶺建設

《 目 次 》

1. 事業概要 ・・ 3

1)事業者名及び代表者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2)所在地 ・・ 3
3)責任者及び事務局 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
4)連絡先 ・・ 3
5)事業活動の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
6)対象範囲 ・・ 3
7)事業規模 ・・ 3
8)推進組織図 ・・ 3

2. 環境経営方針 ・・ 4

3. 環境経営目標(次年度の目標) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4. 環境経営計画と取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

5. 環境経営目標・環境経営計画の実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

6. 環境経営計画の取組み結果の評価と次年度の取組内容・・・・・・・ 9

7. 環境関連法規取りまとめと遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

8. 代表者による全体評価と見直し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

1. 事業概要

1)事業者名及び代表者名

株式会社長嶺建設
代表取締役　　長嶺 長道

2)所在地

〒880－1102　宮崎県　東諸県郡　国富町大字宮王丸289

3)環境管理責任者

EA-21責任者　：長嶺 長道

4)連絡先

連絡担当者　：　長嶺 祐子
TEL　：0985-75-2582
FAX　：0985-75-8981

5)事業活動の内容

建設業(土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、舗装工事業、水道施設工事業)

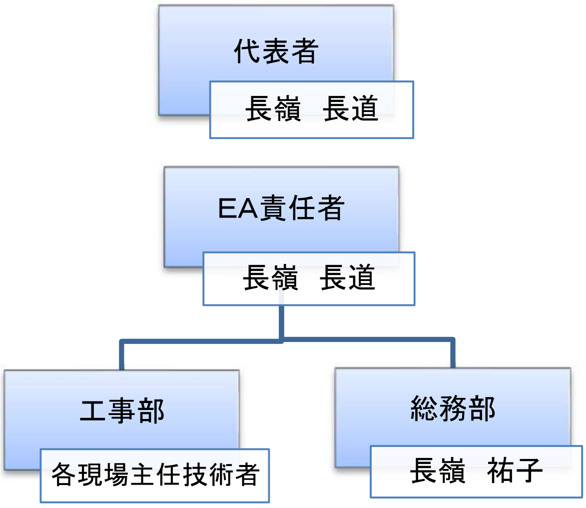
6)対象範囲・・・(全組織・全活動)

・組織・・・本社・資材置き場
・活動・・・建設業　(土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、舗装工事業、水道施設工事業)
・レポートの対象期間　　2023年4月～2024年3月
・レポートの発行日　　2024年5月8日

7)事業規模

項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	5	5	5	5	6
従業員数	9	9	9	9	9
床面積(㎡)	128	128	128	128	128

8)推進組織図



エコアクション21

「環境経営方針」

＜基本理念＞

私達は、地域に根差した事業活動を行い、積極的な環境保全に努めるとともに、関連する環境の法規制を遵守し、地域貢献活動により地域社会との共生に取り組んでいきます。

＜基本方針＞

1． 当社は、土木・建設工事事業に於いて、より安全で効率的な事業活動を行い、環境経営目標・環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。

2． 関連する環境の法規制を遵守し、行政機関・団体地域の要請に協力します。

3． 土木・建設工事事業に於いて、環境に与える影響に配慮し、むだを削減するために、次の事項に対して優先的に取組みます。

① 化石燃料、電気使用量の節減による、二酸化炭素排出量の削減
② 事業活動工程から排出される廃棄物のリサイクル推進
③ 節水活動による水使用量の削減
④ 環境に配慮した施工計画の提案及び実施

4． 環境保全に関する意識を向上させるため、全社員で取組み、地域での社会貢献活動に努めます。

5. 積極的な環境コミュニケーションを実施し、社内での環境経営方針の周知を徹底し目標を達成出来るように全社員で取り組みます。

6. 工事受注の維持に努め社員の安定した雇用を目指します。

改訂 2022年4月8日
株式会社 長嶺建設
代表取締役 長嶺 長道

3. 環境経営目標(次年度の目標)

＊2019年度から2020年度の平均を基準値として、短期(当年)及び中期(3ヶ年)の目標値を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年　度　別　環　境　目　標 基準値 (2019年4月～2021年3月)	2021年度 (2021年4月～2022年3月)	2022年度 (2022年4月～2023年3月)	2023年度 (2023年4月～2024年3月)
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)		全社	7,228.5	7,156.1	7,083.7	7,011.6
	①電気使用量の削減 (kWh)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	5,003.5	4,953.5	4,903.4	4,853.4
		現場	3,217.5	3,185.3	3,153.2	3,121.0
		全体	8,221.0	8,138.8	8,056.6	7,974.4
	②ガソリン使用量の削減 (L)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	1,895.4	1,876.4	1,857.4	1,838.5
		現場	4,749.1	4,701.6	環境活動計画の遵守	
		全体	6,644.5	6,578.0	1,857.4	1,838.5
	③軽油使用量の削減 (L)					
		現場	37,646.9	環境活動計画の遵守		
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	22.0	21.7	21.5	21.3
	②.建設副産物のﾘｻｲｸﾙ率向上	現場		リサイクル率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m3)		.		基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		全体	369.5	365.8	362.1	358.4
4. 環境保全の取組推進 (ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施)		全体	4回/年	4回/年	4回/年	4回/年
5. 自らが施工する環境配慮		現場		環境活動計画の遵守		

＊建設副産物のリサイクル率は(再利用＋再生利用＋熱回収)÷総排出量×100
＊電力の二酸化炭素排出量は九州電力の実排出係数0．344を使用しています。
＊自らが施工する環境配慮は当該環境活動計画を遵守する事を目標としています。
＊現場の軽油とガソリンは数値実績は把握しますが、実績の評価はしません。削減させるための環境経営計画の実施状況を評価します。(ガソリンについては2022年度より適用)
＊化学物質を含む製品の使用はありません。

電気	0.344
ｶﾞｿﾘﾝ	2.32166
軽油	2.62434

3. 環境経営目標(次年度の目標)

＊2022年度から2023年度を基準値として、2024年度からの中期(3ヶ年)の目標値を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年度別環境目標 基準値 (2022年4月～2024年3月)	2024年度 (2024年4月～2025年3月)	2025年度 (2025年4月～2026年3月)	2026年度 (2026年4月～2027年3月)
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2)		全社	5,813.5	5,755.3	5,697.0	5,639.0
	①電気使用量の削減 (kWh)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	4,010.0	3,969.9	3,929.8	3,889.7
		現場	2,562.0	2,536.4	2,510.8	2,485.1
		全体	6,572.0	6,506.3	6,440.6	6,374.8
	②ガソリン使用量の削減 (L)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	1,351.9	1,338.4	1,324.8	1,311.3
		現場	環境活動計画の遵守			
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	環境活動計画の遵守			
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)			基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		事務所	18.3	18.1	17.9	17.8
	②. 建設副産物のリサイクル率向上	現場		リサイクル率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m3)		.		基準値比1%削減	基準値比2%削減	基準値比3%削減
		全体	366.0	362.3	358.7	355.0
4. 環境保全の取組推進 (ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施)		全体	4回/年	4回/年	4回/年	4回/年
5. 自らが施工する環境配慮		現場		環境に配慮した施工計画の遵守		

＊建設副産物のリサイクル率は(再利用＋再生利用＋熱回収)÷総排出量×100

＊電力の二酸化炭素排出量は九州電力の実排出係数0. 407を使用しています。

＊自らが施工する環境配慮は当該環境活動計画を遵守する事を目標としています。

＊現場の軽油とガソリンは数値実績は把握しますが、実績の評価はしません。削減させるための環境活動計画の実施状況を評価します。

＊化学物質を含む製品の使用はありません。

電気	0.407
ｶﾞｿﾘﾝ	2.32166
軽油	2.62434

４. 環境経営計画と取組内容

取組項目	活動内容	推進責任者	実施期間
･電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	総務部門 長嶺祐子	①4月～
	②空調温度管理（設定温度遵守）		②6月～9月、11月～3月
	③照明器具やｴｱｺﾝﾌｨﾙﾀｰの定期清掃		③4月～
	④LED証明の活用		④4月～
･ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底(ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟなど)	全部門	①4月～
	②効率の良い配車（相乗り）		②4月～
	③忘れ物によるUﾀｰﾝ防止の為の事前段取りの徹底		③4月～
	④低燃費の車輌導入		④4月～
･軽油使用量の削減	①重機のﾌﾙｱｸｾﾙ抑制運動の展開	工事部門 各現場責任者	①4月～
	②重機の定期点検整備の実施		②4月～
	③効率の良い配車（相乗り）		③4月～
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	全部門	①4月～
	③コピー用紙などの節減(ﾍﾟｰﾊﾟﾚｽ化・裏紙使用など)		②4月～
	③資材梱包材の業者持帰り依頼		③4月～
・リサイクル率の向上	①マニフェストによる処分量の確認(再生・最終処分など)	工事部門 各現場責任者	①4月～
	②リサイクルの為の分別をしている		②4月～
	③廃棄はリサイクル業者へ依頼している		③4月～
	④計画的な資材購入		④4月～
・水資源使用量の削減	①定期的な漏水点検	全部門	①4月～
	②洗車時は蛇口のこまめな開閉をする		②4月～
	③地下水や雨水をできるだけ利用する		③4月～
・環境保全の取組推進	①事務所周辺の清掃活動	全部門	①4月～各月
	②現場周辺の清掃		②随時に実施
	③地域ボランティア活動参加		③随時に実施
・自らが施工する環境配慮	①騒音・振動・粉塵・水質汚濁等に配慮して施工する	工事部門 各現場責任者	随時に実施
	②環境配慮型重機・機器の使用		随時に実施
	③工期短縮の創意工夫をする		随時に実施

5. 環境経営目標の実績

2023年度の環境経営目標に対する達成状況は以下のとおりです。

取組み項目（目標項目）（単位）		実施区	目標値	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量の削減（kg-CO_2）		全社	7,011.6	5,061.9	138.5%	○
1エネルギー削減（CO2削減）	①電気使用量の削減（kWh）	事務所	4,853.4	4,463.0	108.7%	○
		現場	3,121.0	2,186.0	142.8%	○
	②ガソリン使用量の削減　（L）	事務所	1,838.5	1,195.1	153.8%	○
		現場	環境活動計画の遵守	遵守しています		
	③軽油使用量の削減（L）	現場	環境活動計画の遵守	遵守しています		
2廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減（kg）	全社	21.3	21.5	99.0%	×
	②. 建設副産物のリサイクル率向上	現場	95%以上	100%（125.12 t）	100.0%	○
3. 水資源使用量の削減（m3）		事務所	358.4	388.0	92.4%	×
4. 環境保全の取組推進（ボランティア実施回数）		全社	4回以上/年	17	141.7%	○
5. 自らが施工する環境配慮		現場	環境活動計画の遵守	遵守しています		

＊目標値は2019年4月～2020年3月平均実績に項目ごとの削減率を乗じた値です。
＊実績は2023年4月～2024年3月の実績です。
＊建設副産物のリサイクル率は（再利用＋再生利用＋熱回収）÷総排出量×100
＊電力の二酸化炭素排出量は排出係数0．344を使用しています。
＊現場の化石燃料を含めた二酸化炭素排出量は95346．54kg-CO2です。

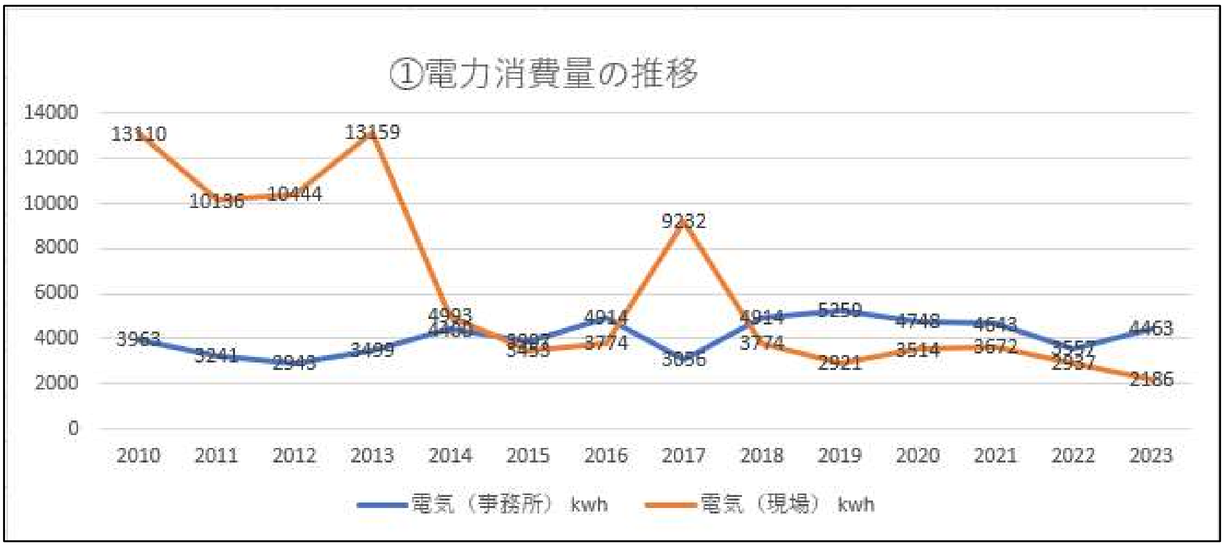
6.環境経営活動の取組み結果の評価と次年度の取組内容

ＥＡ－21の取組みにより、環境目標や活動計画及び各人の役割などを周知し、情報の開示により環境対策活動に対する意識向上ができつつある。

	取組の結果	評価 次年度の取組
1） 電力使用量の削減	…電力使用量は、事務所達成率108．7%、現場達成率142．8%ともに目標達成となった。 LED照明を積極的に活用し電力消費量の削減に取り組んだ。	現場の安全灯には太陽電池を積極的に使用したことにより経費節減に繋がった。 今後も省エネ対策の製品導入、自然エネルギーの活用を行い継続して節電に取り組むこと。
2） 化石燃料使用量の削減	…現場のガソリンについては、工種・内容により使用料の差が出るため2022年度より目標数値は設定せず、現場ごとに実績数値を計測し提示することによって周知を行っている。車両のアイドリングストップ、相乗りなどエコドライブや重機の日常点検などを徹底することで燃料の消費削減を図った。軽油使用量についても環境活動計画を遵守し消費削減を図った。	環境に配慮した機械等の積極的な導入、運転前の定期点検などの活動により消費削減に繋がった。 エコドライブの徹底、機械等の定期点検による消費削減。環境に配慮した車両等の導入により使用量の更なる削減を行う。
3） 一般廃棄物の削減と産業廃棄物のリサイクル率向上	…書類を電子データ化し紙節減の推進、資源物分別廃棄等を推進している。 現場の一般廃棄物は事務所で分別記録している。 また、個人が持ち込んだゴミについては持ち帰りを推進している。 建設副産物（産業廃棄物）については、廃棄の際分別を徹底しリサイクル率を高め、廃棄物の削減と再利用の促進を図った結果目標を達成できた。 計画的な資材購入などを行った。	削減、リサイクルの徹底が目標達成につながった。 今後も再利用可能な資源の導入、計画的な資材購入など廃棄物排出をおさえるようにする。
4） 水資源使用量の削減	…実施年度の工事数が増えたことにより水の使用が増えたことで、目標が92．4%に留まった。	周辺地域への環境配慮により散水などを行うが、工事数が増えたことにより未達成となった。 地下水の利用に努める。散水容器の使用前点検をこまめにする。
5）環境保全活動の推進	…清掃活動及び環境関連のボランティア参加、現場周辺や事務所周辺の清掃などを行っている。また、地元関連の要望にも直ぐに対応するなど地域コミュニケーションを図った。 河川工事においては洪水に備えて土嚢を設置したり、汚濁防止フェンスを設置するなど、環境保全活動も積極的に行った。	環境保全活動を通して地域への理解を深めることができている。 引き続き環境保全への活動に積極的に参加すること。
6）自らが施工する環境配慮	…予想される問題点に対して散水などの粉塵対策や低騒音重機の使用による騒音対策などの予防措置を行った結果、苦情などの問題はなかった。	各現場毎に、現場の状況に合った創意工夫をしている。 次年度も更なる環境配慮型施工を心がけていく。

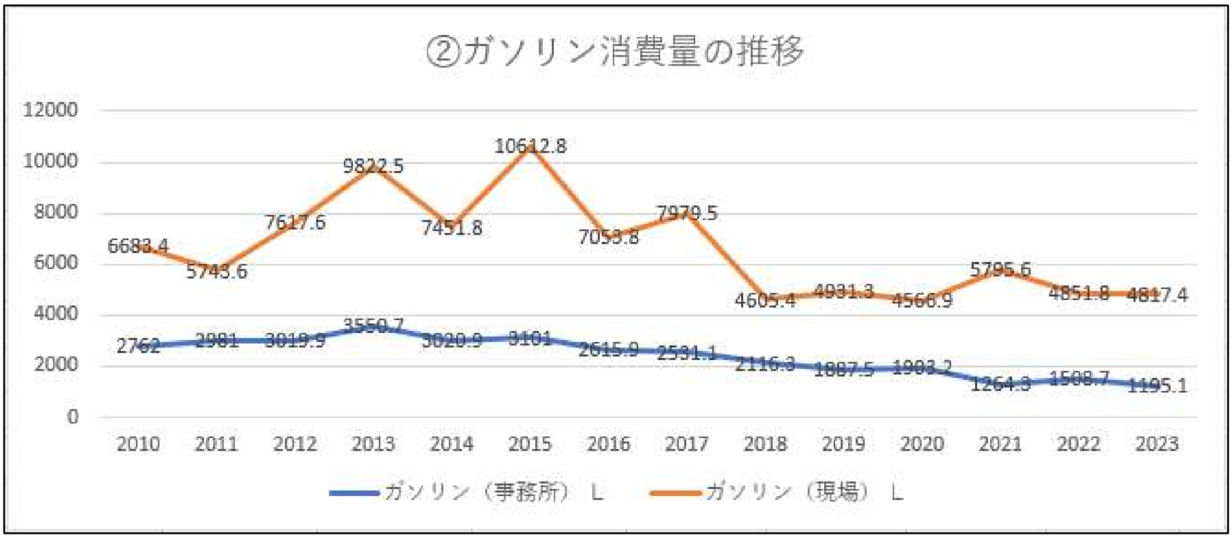
1） 電力消費量の推移

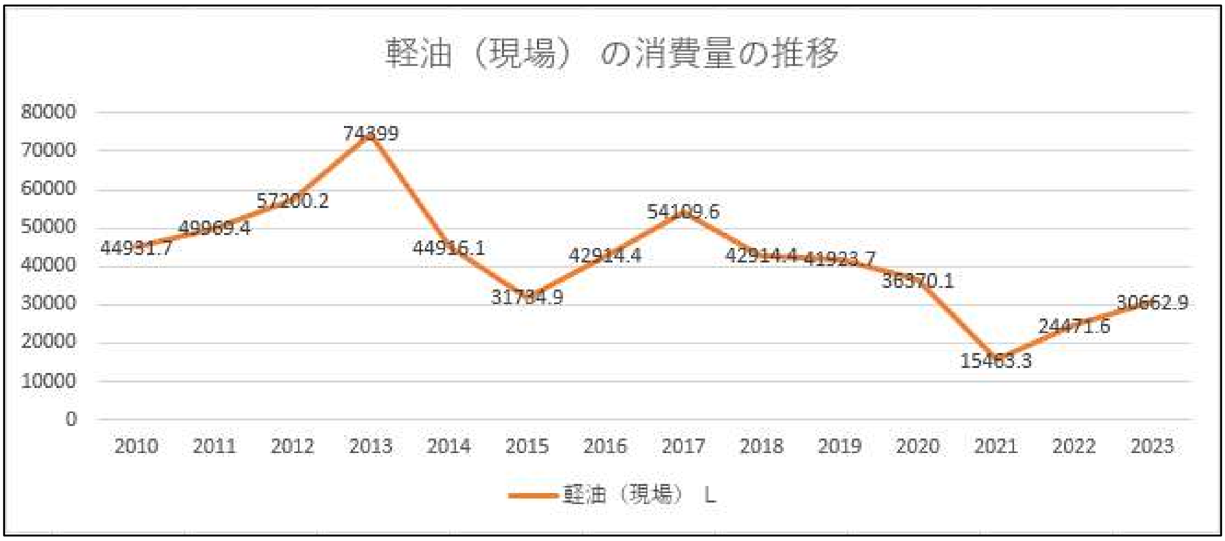
2010年から2023年までの電力消費量をグラフ化した。
現場での消費量については安全対策としての工事灯や回転灯など太陽光発電などの
自然エネルギー対応機器への移行を進めた結果減少している。
事務所の消費量については現場での作業を事務所で行うことがあるため減少とはなっていない。
また年々気温の異常な上昇により冷房を使用する期間が長くなっており、熱中症対策のため
やむを得ない状況となっている。



2） 化石燃料消費量の推移

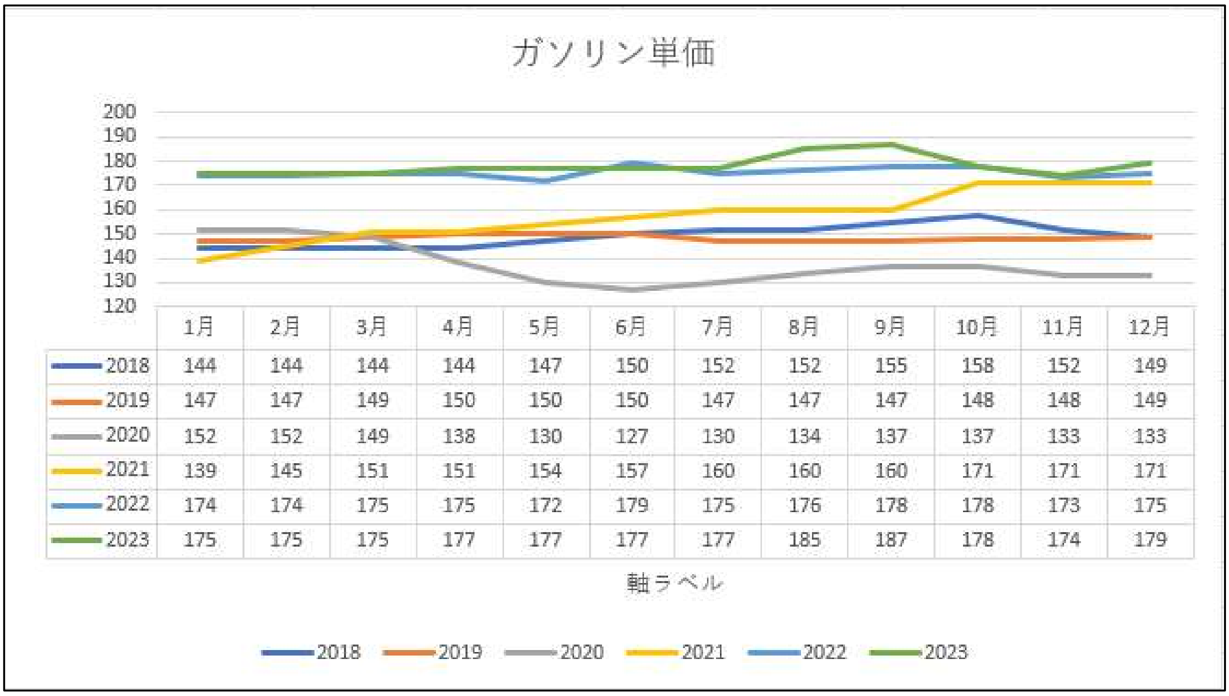
2010年から2023年までの化石燃料消費量をグラフ化した。
現場でのガソリン軽油については低燃費車両への移行、環境に配慮した機材の導入、アイドリングストップ運転、配車効率化等により大幅に減少している。
事務所ガソリンについても活動の成果が出ている。



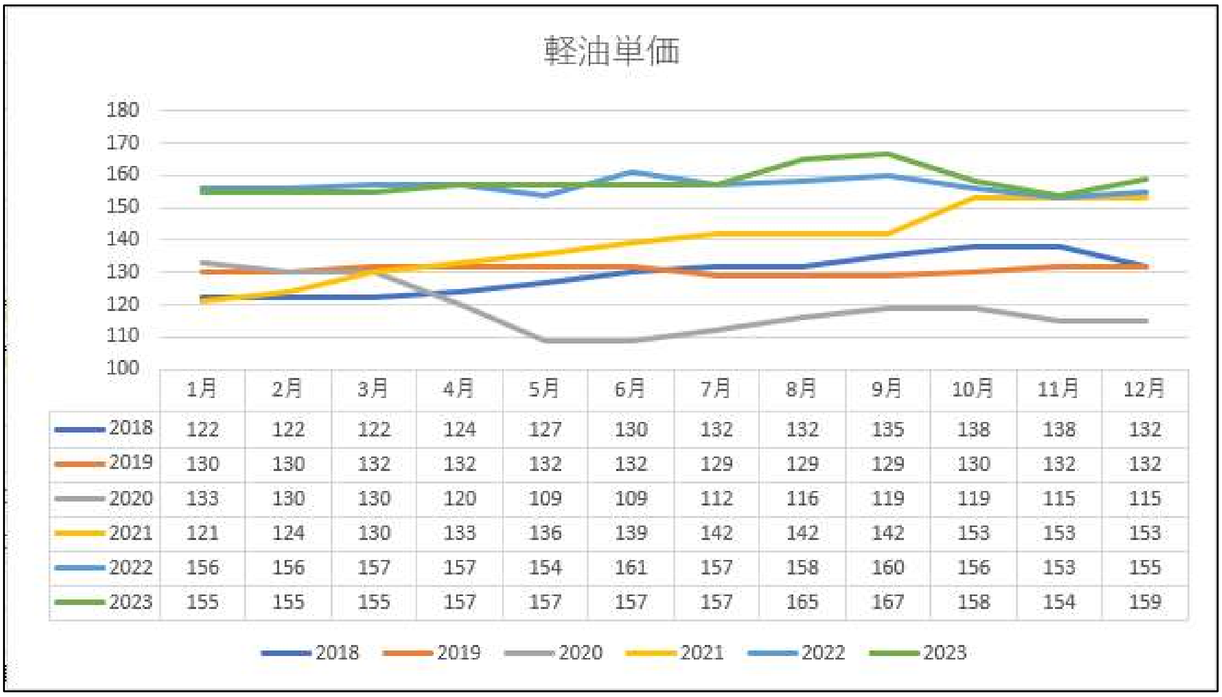


2） 化石燃料単価の推移

2018年から2023年までの化石燃料単価をグラフ化し単価の推移を表した。
最低価格の2020年から最高価格の2023年では50円以上の差が生じている。
見積単価も価格変動に伴って上がってはいるが直ぐに見積価格に反映される
わけではないので、少なからず利益に影響がでることになる。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018	144	144	144	144	147	150	152	152	155	158	152	149
2019	147	147	149	150	150	150	147	147	147	148	148	149
2020	152	152	149	138	130	127	130	134	137	137	133	133
2021	139	145	151	151	154	157	160	160	160	171	171	171
2022	174	174	175	175	172	179	175	176	178	178	173	175
2023	175	175	175	177	177	177	177	185	187	178	174	179



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018	122	122	122	124	127	130	132	132	135	138	138	132
2019	130	130	132	132	132	132	129	129	129	130	132	132
2020	133	130	130	120	109	109	112	116	119	119	115	115
2021	121	124	130	133	136	139	142	142	142	153	153	153
2022	156	156	157	157	154	161	157	158	160	156	153	155
2023	155	155	155	157	157	157	157	165	167	158	154	159

環境対策に関する資料

環境に配慮した機材の使用状況

排出ガス規制、低騒音の機材を使用しています

外部環境コミュニケーション資料

AEDを設置

河川清掃

道路清掃

洪水対策

地元保育園児を対象にした現場見学会

濁り水対策

7. 環境関連法規取りまとめと遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無

弊社に関する主な環境関連法規制（廃棄物処理法、オフロード法など）を毎年取り纏めて、
3ヶ月毎に遵守状況を確認していますが、違反や地域からの訴訟などはありませんでした。
又、関係当局からの指摘や、違反等はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直し

環境経営活動を全社員で取り組むことができた。
粉塵対策や騒音防止策、洪水災害への備え、農産業や生物多様性への配慮のための
汚濁防止策など、環境に対する対策を高じた。
周辺地域の清掃活動を通して外部コミュニケーションを図った。
環境に配慮した施工の実施、エコドライブや省エネ機材の導入、計画的な資材購入
など積極的な活動ができた。
建設業に対する理解と興味を持ってもらうため、地元保育園児を招いての
工事見学会などを行った。
2024年度より新たな目標数値を設定し3か年の計画を立て、目標達成するよう
引き続き全社員で活動を行っていく。